

### ③ 近藤遼一(3年)

二一塁手、奈良・桜井西中出

センバツ便り

昨夏の甲子園ではベンチ入りできず、悔しい思いをしました。この大会は、夏の借りを返すチャンスだと思っています。



## 夏の借りを返す

客席から見るとグラウンドから見るのでは、球場の大きさが全然違います。外野席がとても遠く見えませんでした。開会式の入場行進では、自分の一振りどころまで打球を飛ばすんだとイメージしながら歩きました。冬の練習のおかげか、バットは秋の大会より強く振れています。でも、打撃は100点満点でいうとまだ80点。スイングのタイミンを改善し、もっと打率を上げていきたいです。

○：開会式の入場行進で八学光星の旗手を務めた武岡龍世主将。前日のリハーサルとは違い、大勢の観客の前を歩いたことで

### 光星主将・武岡

「たくさんの方の前で試合をする緊張感を改めて感じた」と表情を引き締めた。

昨夏の甲子園にも主力として

## 「隙のないプレーを」

出場したが「暑くて太陽の光も強かった夏と比べると、春は静か」と夏と違う球場の雰囲気を感じ取った様子。行進中、客席から「光星がんばれ」という激励の言葉が何度も聞こえ、励みになったという。最後に「夏とは違う雰囲気を楽しみながら、隙のないプレーをしたい」と意気込んだ。